

KD0921

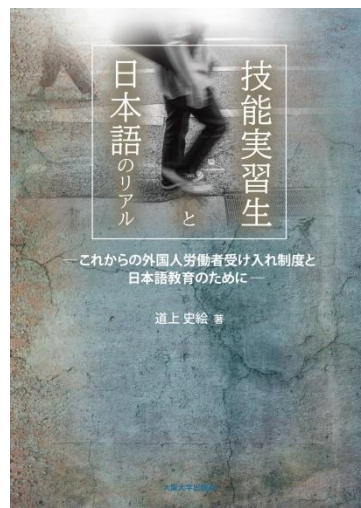
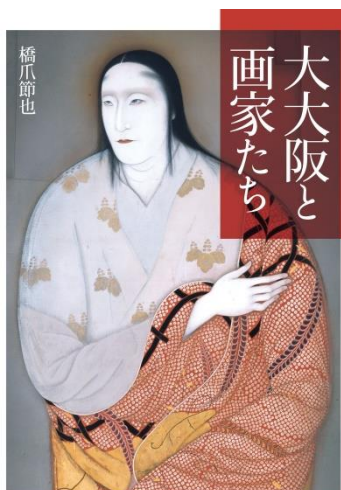
2025年8月

販売可能機関：すべての機関

大阪大学出版会

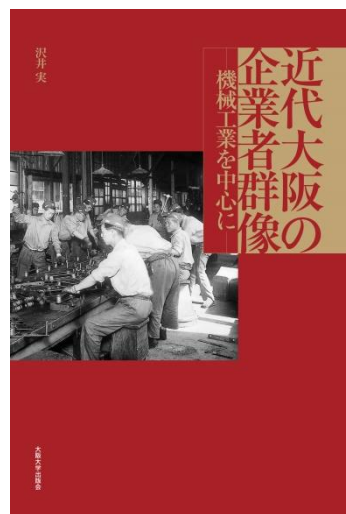
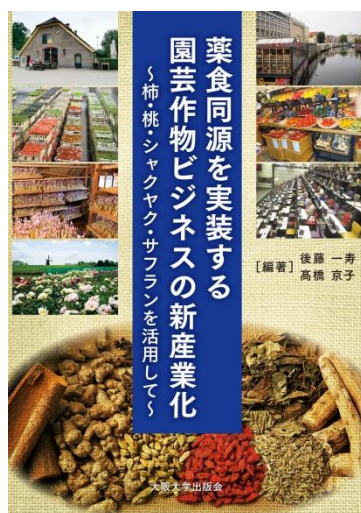
新 着 コ ン テ ン ツ

(2024年10月～2025年6月にKinoDen搭載)



竹村博恵
Hiroe Takemura

大阪大学出版会



大阪大学出版会 全タイトル一覧はこちら

➡https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/img/KD0921_list.xlsx



NO	書影	書名	著者	ISBN	底本刊行 年月	Product ID	同時アクセス1 本体価	同時アクセス3 本体価	フォーマット
内容紹介									
9		西洋化の限界 ――アメリカと東アジアの知識人が近代性を創造する	ジョン・T・ダヴィダン【著】/ 中嶋啓雄【監訳】	9784872597714	202411	KP00105854	¥23,760	¥47,520	PDF
		東アジアの近代化は、単なる西洋化の道ではない――福沢諭吉、デューイ、コンチホ、ビード、吉野作造、魯迅、胡適といった東アジアの知識人が、西洋諸国の東アジア進出以降、アメリカ知識人の影響を受けつつも陽明学の伝統を背景として独自に近代化を完遂する思想的支柱を保持し続けてきたことを明らかにする。アメリカ研究から日本近代史研究に移った異色のアメリカ人研究者が紐解く東アジアの近代化、初の日本語訳。 本書は2018年にRoutledgeより刊行されたJon Thares Davidann著『The Limits of Westernization: American and East Asian Intellectuals Create Modernity,1860-1960』の翻訳です。							
10		「自由通商運動」とその時代 ――昭和戦前期大阪財界の政治経済史	瀧口剛	9784872598070	202410	KP00105856	¥24,090	¥48,180	PDF
		国際協調とナショナリズムがせめぎ合う時代。国内外の政治経済に働きかけることで通商を促進しようとした「自由通商運動」と、それを率いた大阪財界の軌跡を追う。1928年、国際連盟の掲げた目標の一つである通商自由主義を実現し、関税引き上げの動きを抑止することを主たる目的として自由通商協会が創設された。自由通商運動は古典経済学的アイデアを背景としつつも、戦間期の国際協調とナショナリズムがせめぎ合う国際政治経済状況、日本の人口増加、資源問題、社会問題などを前提としつつ国際的、国内的政治経済状況に働きかけて可能な限り関税低下などによって通商を促進しようと活動した。自由通商運動は、財界人や上田貞次郎のような学者など異分野の自由主義的改革に関心を持つ人々の緩やかな連合体であり、そのために水準の高い機関誌を発行すると同時に政治や関係省庁に働きかけて実際運動も行うことが可能になった。自由通商協会は各地に支部を持っていたが、特に平生釦三郎や村田省蔵などの財界人に率いられた大阪の活動が盛んであった。戦間期の大阪は、東京と比較しても政府の保護を受けることが比較的少ない多様な産業基盤を持つ先進都市で、その貿易都市としての性格が自由通商運動の支持基盤となったといえる。 昭和戦前期は、1920年代後半の政党内閣と協調外交の時代から、満洲事変以後における戦時体制化と対外膨張の時代への転換が生じた時期にあたる。自由通商運動はこの時期の中で大きく三期に分けることができる。第一期は満洲事変以前の政党内閣期である。特に民政党内閣期には井上準之助蔵相を通じて相当な影響力を発揮することができた。第二期は満洲事変から盧溝橋事件までである。満洲事変や経済摩擦の激化という悪化する状況において、その性格を変化させながらも自由通商運動は継続された。第三期は日中戦争以後である。この頃運動は本格的に変容し、最終的には「大東亜共栄圏」と同一化する道へ向かう。本書では、この時期区分に沿って自由通商運動と大阪財界、ならびにその指導的人物の軌跡を分析し、昭和戦前期の政治経済上の変動に与えた影響と意義を考察する。補論では大阪帝国大学の設立過程、および実業同志会や東方文化連盟と大阪財界の関係の推移に注目し、その動向を考察する。							
11		レキシコン研究の広がりと深まり	眞野美穂/江口清子/小栗哲哉/于一楽【編著】	9784872598421	202506	KP00118353	¥23,100	¥38,500	PDF
		本書は目覚ましく進展するレキシコン研究の広がりと深まりを多層的に示すことを目的とする。語彙意味論的・形態論的研究と統語論的研究という2つのアプローチをレキシコン研究の縦軸と横軸として、国内外の第一線で活躍する研究者による最新の成果を示した。類型の異なる複数の言語を考察の対象として、異なる理論的枠組みや着眼点から分析を行い、「レキシコンを文法の中にどう位置づけるか」というテーマに一石を投じる。							
12		緒方洪庵全集 第3巻（下） ――著作（その四）『病学通論』『除痘館記録』他	適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会【編】	9784872598346	202503	KP00117603	¥49,500	¥82,500	PDF
		緒方洪庵の著作の一部（『病学通論』『除痘館記録』他）を各解説とともに収録。洪庵の著作については、分野が多岐にわたることもあり、体系的な研究はいまだなされておらず、その全貌もまだ把握されていないのが現状である。『緒方洪庵全集』では、洪庵の全著作の把握に努め、現段階において知りうるすべての著作を収録している。写本の形で伝わるものについては、可能な限り異本を収集し、その中から洪庵が執筆したものに最も近いと判断されるものを底本とした。異本の情報も解説で補足しており、今後の洪庵研究の基礎史料となるものである。							
13		Dressing Over Japanese History ―― Deciphering the Masculinity of Sovereignty	Sachiko Takeda （武田佐知子）	9784872598391	202504	KP00117605	¥11,550	¥19,250	PDF
		本書は、衣服を静的な対象として捉えるのではなく、それを着用する人間に焦点を当て、特定の衣服を選択して着用する行為がどのように情報交換を可能にし、社会的関係を形成してきたかを探究するものである。古来、衣服において性差は重視されず、階級の差が重視されていた点、すなわち衣服の「権力の表象」としての機能に注目することで、日本の王権の構造、およびそこから派生する美意識の変化を論じた。考察において「異性装」が日本史上果たした役割と意義にも光を当てており、異性装への議論が高まる近年の欧米においても、画期的な指針となりうる。『衣服で読み直す日本史 ―男装と王権―』（朝日新聞出版、1998年）の英訳版。							
・上記の全コンテンツにつき、同時アクセス2の本体価は設定されていません。									
大阪大学出版会 全タイトル一覧 はこちら⇒https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/img/KD0921_list.xlsx									